

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	イギリス ロンドン
滞在都市 (☆)	ロンドン
留学先大学等名 (☆)	SOAS University Of London
留学先での所属学部/研究科 (☆)	Japanese Exchange
留学先で主に使用した言語	英語 日本語 (ボランティアなどで)
渡航先への入国日 (☆)	2017年 9 月 13 日
渡航先からの出国日 (☆)	2018年 6 月 17 日
渡航先国での滞在期間 (☆)	10ヶ月
同伴者の有無・続柄・年齢等	
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー)  取得単位数	Econometrics 通年  講義：基本講義は日本と同じく先生が前にたって話すのが一般的 時々生徒に意見を求めるタイプのももあるが少なくともハーバード白熱教室のように議論のみで展開される授業はない (以降講義についてはどれも形式は日本とおなじようなものなので記述しない) チュートリアル その週の課題の解説と質問対応 先生が一方向的に解説するタイプ
履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー)  取得単位数	Introduction to Accounting 一学期のみ  チュートリアル：事前に問題を渡されてチュートリアルにて答え合わせ 先生から指名されると答えをいうタイプ

大阪大学経済学研究科/経済学部  
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Introduction to Development Studies 通年 チュートリアル；授業の復習 その後、ディスカッショントピックについてのプレゼン（一人一回ずつするはずだったが担当の人が来ないことも多く後半は有名無実化）そのあと、ディスカッションと発表 ディスカッションは途中で議論が詰まったら先生がサポートに入ることも
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Issues in Development Economics 通年 講義：リレー講義 毎回先生が違う チュートリアル：
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Issues in post-war Japanese Society 二学期のみ チュートリアルは講義の補則解説と質問募集 チュートリアルの出席率はあまり高くなかった
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	

<p>履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数</p>	
<p>履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数</p>	
<p>留学生（日本人）の割合</p>	<p>授業に大きく依存 ゼロの授業もある。多い授業でも4-5人 語学学校は日本人が多いらしい</p>
<p>成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）</p>	<p>科目による。100%エッセイでの評価から100%試験での評価まで。エッセイの分量もコースによる。500字程度の感想文のようなもの（芸術系の授業に多いらしい）から5000字程度のエッセイまでである。 2500から3000字が正規課程の授業では標準的だと思われる。 ちなみに、語学学校は2000字を超えることはないと思う。成績は100点満点ということになっているが、70点以上は実質とすることは不可能（数年に一度とるひとがいるかいないかのレベル）なので70点満点と考え、60点以上をとることを目標とすればよい。（大量の文法エラーがあっても、エッセイに関しては構成がきちんとしていて、内容があれば60点もらえる）</p>
<p>履修科目の制限等（あれば）</p>	<p>二学期合計で八コマ取ることが義務 それ以上は交渉により取ることもできるようだが、大変だと思うので、規定のコマ数のみ取することを推奨。 また、コースによっては事前にとっていることが要求されるコースがある。そのため、留学生は2年生以上の講義を取るときは、受講基準があるか確認をすること。受講基準がある講義の場合、授業を担当する教員のメールなどでやりとりをして受講可能かの交渉を行う。経済系の授業はミクロとマクロを取っていたら大抵受講できる。 語学系の授業を受講する場合は、第一週に行われる。Placementtest を受ける必要がある。 （以上の情報は正規課程のみ） 語学学校の場合、時間割が組まれている。</p>

<p>(英語圏以外の場合) 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について</p>	
<p>語学に関するサポート(特別授業、チューター、エッセイライティングに関するサポート等)</p>	<p>語学に関しては、語学学校はそれが専門なので、正規課程のみについて記述。 最初の書類提出時に特定の IELTS の点数 (全体で7 ぐらい) に達しない場合、preessional Course を受けることとなる。この Preessional Course はお値段もするし、単位春学期の単位をとれるかどうか怪しい (試験の始まるころにスタートするため) ので私は取らなかった。 そうでない場合で、規定の点数 (1 部門だけ7 に達しなかった場合など) に達しない場合は、Insessional Course という留学生のためのサポート授業が受けられる。ただし、こちらは早い物順なので早めに申し込むこと。</p>
<p>授業内での留学生に対するサポート等</p>	<p>特になし 正規学生と同じ 1 セメのみの学生の場合、試験やレポートが別になる時がある。</p>
<p>その他</p>	<p>阪大の GLE 的なもの (こちらでは Moodle ないし BLE と呼ばれる) で資料や授業のスライド、課題の提出を行う。 SOAS には建物が3つあり、それぞれ複数の呼び名があるため最初は混乱するかもしれない。(しかも人により名前の言い方が違う) SOAS の事務、管理部門のパソコンはよくクラッシュを起こす。(私がいるときだけで4、5回ほどクラッシュをおこしていた) そのため、入学するころに、手続きがされていないなど言われることもあるが、手続きをした記憶があるならかなりの確率で PC の不具合を疑ったほうがよい。 開発学の授業を取る場合の注意点: 開発系の先生は、無意識にマルクスの理論を使っている場合があるため、開発系の授業を SOAS でとるならマルクスの勉強は必須。</p>

## 2. 2 福利厚生に関する情報

<p>大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について</p>	<p>生協の売店 (文房具多少とお菓子、飲み物食べ物など コーヒーマシーンが人気) 食堂 5-6 ポンドの定食、量によって値段が変わるサラダバーがある。ベジタリアン対応の食事あり。 生協のバー (JCR のバー) 生協運営のバー。様々なお酒を売っている (夜に営業) (値段は特に安いわけでも無い)</p>
----------------------------------	---

大阪大学経済学研究科/経済学部  
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

図書館について	本はかなり充実 日本語などの本もかなりある。 図書館のシステムは1月に一回程度の頻度でダウンしていることがあるので、注意が必要。 また、ストライキの時はなかなか入りづらい。
保健センター等の有無	有り アポイントメントが必要 かつ頻繁にスケジュール変更ありメールなどでスケジュール変更の知らせは届くので確認すること
クラブ・サークル等について	サークル等は多数あり ここでは、文化系サークルにのみについて記述 最初に週にサークルオリエンテーションがあるのでそこで、メールアドレスを登録する。そしたら、イベント毎の度にメールで案内がくるようになる。 なお、殆ど活動していないサークルも多数あるため、サークルは多めに加入するのがおすすめ。
留学生へのサポート	留学生だからといって特別なサポートはなかったと思う。
オリエンテーション等学校主催の行事について	留学センターが学期の最初と最後にパーティーをやっていた。
現地の学生との交流について	授業であう他、ソサエティーで一緒になることも。それ以外は特になし。 あと、私の場合は日本語学科の学生に対して日本語ボランティアをしていたためそれでの交流はあった。
他の留学生との交流について	
学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	何か特技があればコミュニティ活動も可能かもしれない。 例えば、楽器が得意な子は教会の楽団に参加していたし、サッカー好きの子は地域のサッカークラブに参加していた。なお、最初にどうやって連絡したかは私はよく分からない。
長期休暇中の過ごし方	
その他	最初に Student Union 主催の ConsentWorkshop というものに全生徒が参加する必要がある。

3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	Tier4 Student visa
----------	--------------------

ビザの取得手続について(申請方法、申請から取得までの所要期間等) (☆)	<p>申請は、大学からの入学許可を得てから行われる。専用のウェブページから申請を行う。ミスをする则ちやり直しがきかない系なので、メアドを複数用意して申請する則ちやり直しがきく。</p> <p>申請書類としては、いろいろ書いてあるが、基本入学許可証だけでOKらしい。ただし、追加書類(預金残だが証明など)は自分で仕分けする必要があるが、全てその他の書類にいれておけばOK。</p> <p>所要期間は通常の申請方法だと2-3週間程度。ただし、夏休みなどの大型連休の前は申請が混雑するので時間がよりかかるかと想われる。</p> <p>また、申請窓口はアポイントメントが必要であるので、早めに申請して早めのアポイントメントを取ることを推奨。</p>
利用航空会社	ANA
入国の際の現地空港名	ヒースロー空港
空港から滞在先への移動について(交通手段や所要時間)	ヒースロー空港からは、地下鉄(ピカデリーライン)ないしヒースローエクスプレスでいける。
入国審査について(提示した書類、審査官からの質問等)	提出書類は、ビザの書類とパスポートのみ。入国審査官により質問もばらばら。私は大学の名前と専攻を聞かれた。やる気のない審査官はほとんど質問しない時もある。また、ブリティッシュエアウェイズで行くと多分待ち時間が少ない。
渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	渡航後、指定された郵便局にいてビザを受け取る。(30分程度並ぶ)この時には、パスポートと書類、が必要。また受け取りの際にイギリスでの住所が必要なので必ず住所をメモした紙を持って行くこと。
その他	

#### 4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	有 無
奨学金名	JASSO 奨学金
奨学金月額受給額(円)	100000円
入国時に用意した金額	1000000円
クレジットカードについて(カード会社名・日常の利便性)	クレジットカードは、VISA を使用。VISA ないし、MASTER カードが最も使い勝手がよいかと思う。なお、カードの機械の調子が悪い時もあるので、常に2種類カードを私は持ち歩いていた。
留学中に利用した銀行名	LLOYDS BANK

現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	開設はした。開設銀行は LLOYDS がおすすめ。（留学生がよく作っている、口座維持手数料もなく要求される書類も多くない） 作りかたとしては、まず銀行に行きアポイントメントを取る。その上で、指定された日時までに BankLetter という学校が発行する書類と指定された書類（パスポート等）を持って銀行に行く。あとは銀行の人とだべれば口座ができる。
デビットカードの使用について	有り。 デビットカードはかなり便利だが、一部使えない場合があるので、クレジットカードも持っておくこと。
日本からの送金方法について	デビットカードの使用をしていたため、送金不要
1ヶ月の生活費（目安）	7万円（外食などを含めて）
その他	

## 5. 暮らしに関する情報

### 5. 1 住居に関する情報

住居の種類（学生寮（一人部屋・二人部屋）・アパート等）	一人部屋 シャワートイレ完備 キッチン共有 なお、トイレの水の流れはよろしくない時が多い。 また、部屋に鏡がない場合も（女の子には困るらしい） 一応、寮に申し込む時に多少の希望が出せるらしく、一階とキッチンの隣はやめておいたほうがよい。（1階は窓が開けられず、キッチンの隣は深夜のパーティー、料理の音が響くから）
家賃	9万円（月換算） なお私の寮は、年に3回支払う形式だった。
住居を探した方法・時期	入学許可が出てすぐ探した。（早めに寮に申し込まないと寮には入れない）
荷物の運搬方法（ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等）	手で運ぶ。ただし、荷物が多い場合は、前日に別の寮の近くのホテルに宿泊して、そこから運んだ方がいい。（入寮当日は非常に多くの方が手続きに並ぶため荷物の管理が大変だから）
その他	寮の清潔さは、フラットメイトによる。私のフラットはきれい好きの人が多かったので、きれいだった。しかし、皿を洗わず放置する人が多いフラットだとキッチンが使えないということもあったらしい。

### 5. 2 食生活についての情報

普段の食事(自炊・食事つき学生寮等)	自炊 後述するが基本的に日本と同じ食生活を送りたいなら可能
1ヶ月の食費	5万円(外食するとそれなりにかかるかも)
その他	

5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	<p>特に使用しなかったが現地で一応携帯は買った。しかし、チケットの予約などで要求されることも多いので、SIMfreeの携帯で携帯番号はもっておいたほうがよい。また、就活をするなら絶対に必要。</p> <p>月払いのケータイは少々手続きが面倒だが、その都度払いのPay As you Go方式の携帯は15分で買える。</p> <p>こちらは携帯を買って、そのうえで、通信会社と契約する形式なので、機種代を安く納めようと思えば数百円でも可能。(スマホは最低1万円ぐらいする)</p>
インターネットについて(Wi-Fi環境等)	<p>寮による。私の寮はインターネットがついていた。</p> <p>また、学校には無料で使えるパソコン(図書館)他、Wifiがある。(学校のwifiの強さは阪大と同じぐらい)</p>
コンピューターについて	<p>持参を強く推奨。日本と異なり、授業に必要なプリントなどは、ネットを通じて配信される。また、エッセイなどは手書きでなくパソコンを通じての提出のため、パソコンを持ってないとかなり大変なようであった。</p>



郵便について	<p>特に使用しない。ただし、入寮すると以下の二つの手紙が高確率で送られてくるので、熟読し手続きをすること。</p> <p>① 選挙人登録の案内 地方の選挙管理事務所から選挙人登録の手紙が来る。(白い封筒で重要と書いてある)しないと罰金と書かれていてかなり怖い。実際はイギリスと旧植民地の国籍を持つ人しか選挙権を持たない。そのため、それ以外の人には手紙に書いてある電話番号に電話をして、選挙人の登録の脅迫じみた手紙を送らないようお願いしないとイケない。</p> <p>② テレビライセンスの案内 赤い封筒で送られてくる。イギリスでは、テレビを見る際にテレビライセンスというものに契約する必要がある。これに契約せずにテレビを見ると、犯罪行為となる。そのため、寮に新しい人が入ると必ずこのテレビライセンスに契約するように手紙が来る。テレビを持っていない場合は、手紙に書いてある手続きにしたがい、テレビを持っていないと宣言すること。そうしないと手紙がしつこくくる。</p>
交通機関について	<p>交通機関はよく止まる。TFL(ロンドン交通局)のサイトで確認すること。</p> <p>また、ロンドンで生活する際はオイスターカードを必ず作る。でないと交通費が馬鹿高くなる。</p>
治安について	<p>あまりよくないが、犯罪が多発というわけでもない。地下鉄はそこまで安心という訳でない。(よく、お金を恵むようにいってくる人がいる)また、キングスクロス駅など大きな駅にはホームレスが多いので注意すること。</p>
保険について	<p>阪大の推奨の保険で十分かと思われる。イギリスの医者にかかったことはないのでよく分からない。(一応イギリスの保険システム(NHS)の登録は寮で行える)</p>
医療機関・薬について	<p>市販薬はかなり強力で、大抵の風邪は治る。ただ、薬はこちらでは成分名で売っている場合もあるので、服用している薬の成分を調べておくのがよいと思う。</p>
気候と服装について	<p>冬はそこまで寒くはならないが、日照時間が短く気温以上に寒く感じる。春は寒暖の差が激しいので、重ね着できるようにしといた方がよい。</p>

大阪大学経済学研究科/経済学部  
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

普段の買い物について	スーパーマーケットが数多くあるため特には困らなかった。 日本食が恋しくなってきたときはピカデリーサーカスにある「ジャパンセンター」。「ライスワインショップ」等で日本食の材料は大抵買える。
娯楽・行事について	クリスマスシーズンには色々なイベントがある。基本的に私は、大勢があつまるイベントは避けていたので分からない。
日本語の使用について	特になし ただし、他の日本からの交換留学生とご飯を食べに行くことも多かったなのでそのときは日本語を使った。 また、SOASの日本語学科の学生と交流するときも日本語を使った。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	電子辞書はかなり役にたった。 また、食品はイギリスで結局買えたのであまり持って行く必要がなかった。 また、変圧器は日本からドライヤーなどのコードでつなぐパソコン以外のものを使うなら必要。それ以外の場合は重いし高いので持ち込む必要はない。(ACアダプターなどのパソコン、スマホの充電器には変圧機能がついている) 日本語の本はがあると気晴らしになる。 また、文房具、特にボールペンは大量に持ち込むこと。 どんなに安いものを買っても、イギリス製より性能がいい。
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	就活 特にどこでもいいからインターンの経験 就活解禁等のニュースを聞くと一切就活をしてこなかった自分の将来がとても不安になるので、安心のためどこかインターンを経験しておけばよかったかもしれない。 阪大で英語で行われる授業を受ける (ドンゼ先生や恩地先生の授業)
その他	

6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	特になし
---	------

<p>留学中の就職活動について (海外からの情報収集、企業へのコタ外、インターシップ等)</p>	<p>してはみたが、したことを後悔している。 こちらでは、数少ない求人に対して現地大学院生、現地校に通う日本人学生、交換留学生(正規、語学学校を含む)といった多くの学生が申し込むため、なかなか厳しい。(阪大ブランドは、こちらでは通用しない) なので、労多くして益少なしである。 ただし、コンサルタントを目指しているなら、海外の大学に留学していた学生しか採用しない会社もあるためやってもいいかと思う。(もちろん日本で入念な準備をしていないと内定はとれないが)</p>
--	--

#### 7. 語学の学習方法について

<p>留学前に準備したこと、語学能力試験対策等</p>	<p>IELTSの対策はした。日本では、私が準備した頃はIELTSの知名度も低く、参考書も手に入らなかったが、近年は参考書もあるので使うとよいだろう。 また、一般向けの語学学校のIELTS対策コースよりも、留学エージェンなどが運営する語学学校の方がきちんとした対策ができた。</p>
<p>留学中の学習方法、工夫したこと等</p>	<p>とにかく、学校の課題やリーディングをこなすので精一杯で語学の学習を意識して行ったことはない。</p>
<p>留学後にどれぐらい語学力が伸びたか(主観的な実感や具体的なスコア等)</p>	<p>不明</p>

#### 8. その他

<p>留学して得られたこと</p>	
<p>留学中に困ったこと</p>	<p>ストライキ イギリスの大学ではしょっちゅうあって、SOASは一番それが激しいところだとは知らなかった。</p>
<p>留学前/留学中に参考になったウェブサイト等</p>	

#### 9. 留学体験談・エッセイ(様式任意)

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1~2ページ(様式任意)で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚(本人も映っているもの)も合わせて提出してください(国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります)。

#### 1 留学の動機

英語が使える人間になりたかった。

私は、英語の試験はできましたが、いざ使うとなると難しかったです。なので、さらなる高みをめざしたいなと思っておりました。

#### 2 イギリスでの生活（勉強）

イギリスでの勉強は日本と大分異なり、自主性がかなり求められました。授業数は一学期4つしかないのですが、授業のための課題読書が毎回数十ページあり、慣れるまでが大変でした。

#### 3 イギリスでの生活（勉強以外）

息抜きにミュージカルにいたり、美術館などに行っていました。無料の美術館も多く、よい息抜きになりましたし、勉強にもなりました。あと、ビールが色々な種類があって楽しめました。

#### 4 留学の感想

何事もそうですが、やってみると存外簡単だったりします。英語もなんとかなりましたし、食文化などにも慣れました。何事も挑戦してみるものだと思います。

#### 5 これから留学する人へ

私の知る限り、経済学部で交換留学に人が殺到するという話しはあまり聞かないです。何事も経験ですので、就活などあまり気にされていないなら、いってみるのもよいかと思います。